

コミュニケーションプロセス評価法と授業支援法の確立のための設計・実践 ~ 芝浦工業大学における実践事例 ~

「自律型対話プログラムによる科学技術リテラシーの育成」研究プロジェクト
(LSSL: Learning Science for Science Learning) IBS・芝浦工大グループ

支援法の探求

評価法の探求

2007.4~7
前期授業

ディスカッション+発表のグループワークの実践



ビデオによる発表の自己観察およびチェック

評価のフィードバック方法の探究

話し方採点表: (1) もっとがんばろう () 班の発表
発表者()

MANNER	1. 声の大きさ	1	2	3	4	5
	2. 話す速さ	1	2	3	4	5
	3. 声の高さ	1	2	3	4	5
	4. 間の使い方	1	2	3	4	5
	5. アイコンタクト	1	2	3	4	5
MATTER	1. ポイントがはっきりしていた	1	2	3	4	5
	2. 説明がわかりやすかった	1	2	3	4	5
	3. 例やデータが適切に使われていた	1	2	3	4	5
	4. 興味深かった	1	2	3	4	5
	5. 構成がまとまっていた	1	2	3	4	5

発表・質問・回答など
コミュニケーションスキル評価の実践
(自己評価・他者評価)

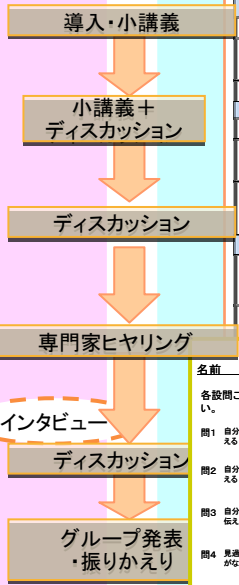
自己評価・他者評価	
自己評価	他者評価
1	2
3	4
5	5

議論・発表テーマ
・東京一極集中
・都心の大幅な容積率緩和
・日本橋首都高地下化

評価項目	①第1回プレゼン 全体的平均		②第2回プレゼン 全体的平均		③差: ②-①
	自己	他者	自己	他者	
Manner					
	声の大きさ	4.53	4.40	4.40	-0.13
	話す速さ	4.092	4.15	4.15	0.058
	声の高さ	3.714	4.05	4.05	0.336
	間の使い方	3.43	4.01	4.01	0.578
	アイコンタクト	3.71	3.70	3.70	0.009
Matter					
	ポイントがはっきりしていた	4.19	4.29	4.19	0.10
	説明がわかりやすかった	3.86	4.18	4.18	0.32
	例やデータが適切に使われていた	3.65	4.00	4.00	0.35
	興味深かった	3.89	4.15	4.15	0.26
	構成がまとまっていた	3.79	4.02	4.02	0.23

2007.10~12
後期授業

阪大CSCDモデルに基づく*
多様なモジュールの設計・実践
(ディスカッション、発表、専門家ヒアリングなど)



議論テーマ:
利益と安全どちらが大切か?
一鉄道交通での経営効率性と技術的安全性とのトレードオフに関する議論

個人的能力	○	○
自分の考えを明確に述べていた		自分の考えを論理的に伝えていた
他者の考えに対して疑問を持ち、問、かけ合っていた		他者からの疑問や反論に対して、再度自分の考えを説明していた
他者の考えに理、理解を示していた		
グループの一人としての能力		
明るく、平等な雰囲気づくりをしていた		積極的な参加者に発言を促していた
論点の拡張・展開を意図し、ずれた場合に修正していた		グループとしての総合力の目的と成果を強調していた
距離から感嘆への移行は、必要な場面で行っていた		
物事を多面的に見る力		
取り組むテーマの両面点や参加者の考えにおける一見ぶらぶらな多様さから、重要なポイントを見出し、それらを関係づけていた		取り組むテーマの両面点や参加者の考えの中で見過ごされたポイントや意見の偏りを気づき指摘していた
多様な考え方があつたことを意識しながら異なる立場から多様な意見を見出すことができた		取り組むテーマの対象に対してメリット・デメリットを挙げた

階層分析法(AHP)
自己評価・他者評価

階層分析法(AHP)
自己評価・他者評価

ディスカッションのプロセス評価
(自己評価・他者評価)
コミュニケーションスキルとメタ認知能力に関する意識変化の観察

*大阪大学コミュニケーションデザインセンター(CSCD)「科学技術コミュニケーション講座」の授業デザイン

成果(得られた知見、学生の意見など)

<得られた知見>
・ビデオを用いた自己観察と、コミュニケーションスキルやディスカッションの自己・他者評価を併せて行うことが有効であること

<学生の意見>
・6回の授業では物足りなさを感じた。毎週や通年で学習したい。
・ビデオや数値で今まで自覚していなかった点に気づけた。